

特集！

神奈川W.Co連合会の 委員会 活動紹介

神奈川W.Co連合会は、中間支援組織として、各単体W.Coの事業や組織の運営に必要なさまざまな仕組みをつくってきました。その一部に各委員会があります。

委員の選出方法は、委員会によって異なり、各部門会議から委員を選出したり、以前協議会（在宅福祉・暮らしまち協議会 ～18年度まで）があった時は、協議会選出だったりしました。協議会は解散したので、今後選出基盤を見直す必要があります。

委員会活動は、どうしても委員の主体性が不足する感覚があります。しかし、連合会の各委員会の活動はすべて、私たちがW.Coのメンバーとして働き、活動していくために必要な制度や支援の仕組みと直結しています。また、W.Co運動をいかに社会にアピールしていくか、考えることの重要性を確認できる場となっているのではないのでしょうか。

常務理事 小林麻利子



共育・研修委員会

共育・研修委員会では、各W.Coでの組織上の悩みや事業の継続に役立てられるよう、講座・研修を計画的に企画しています。委員会を毎月開催し、講座内容の充実を図るための議論や多くのW.Coメンバーに参加してもらえるよう、広報の強化に努めています。

- 講座の企画検討に向けた議論。
講座終了後の点検・改善策の検討。
- 各W.Co組織の研修計画に役立ててもらえるよう、講座の年間計画を早めに立てて広報。
- 講座の内容がわかりやすく伝わるよう、案内チラシを作成。地域W.Coリーダー会議や部門会議で広報・宣伝。
- これまでは毎月共育ニュースを発行し、講座参加者からの感想をお届けしていましたが、より効果的な広報を目指して、2020年度は毎月の発行を取りやめ、参加者の声をまとめた冊子を作成しました。2月開催の地域W.Coリーダー会議で共有し、各W.Coでの共育・研修計画に活かしていきます。

2020年度の共育・研修委員会構成メンバーは理事会代表者1名、理事3名、地域W.Coリーダー会議より各1名選出（2020年度は横浜北：欠員）、理事経験者および単体W.Coからの選出2名。計10名。

委員を募集
しています！

共育・研修委員会は、社会状況を踏まえつつ、「W.Coの問題・課題は何か」「今何を学ぶ必要があるか」などを拾いだし、明らかにできるといった面もあり、ともに学びあえる機会となっています。単体W.Coからの委員選出を歓迎します。

小島きり子

共済委員会

共済委員会は各部門会議から選出された9人の委員と理事会選出の理事1名、事務局1名で構成されています。委員会の主な役割はW.Co共済の加入者を増やす活動と福利厚生企画の運営です。委員会では毎回共済の給付事例の共有をしています。就業中のけがの事例からは、けが防止の対策を話し合い部門会議に持ち帰っています。

また、毎月さまざまな種類の病気による休業が多いことに驚かされています。福利厚生企画は、共済掛け金の10%を共済（株）から受け取り運営しています。健診補助を活用して健康診断を受けることで早期発見、早期治療につなげてほしいと呼びかけています。委員会に関わることで、他部門のW.Coメンバーがどのような業務をしているのかを垣間見ることができ、W.Co同士のメンバーシップが高まります。たくさんの方々に委員会に関わってもらいたいと思います。

委員長:井上浩子

広報委員会

広報活動はW.Co連合会の大きな役割の1つです。2018年度行なった「広報機能強化検討プロジェクト」の答申を受けて広報委員会を設置しました。メンバーは理事会から選出されたうえい編集委員5名と専務理事、事務局と、アドバイザーとして編集W.Coが1名参加して、年に4回開催しています。これまで機関紙「うえい」のカラー化やホームページのリニューアルをすすめてきましたが、今後は近年情報発信ツールとして定着しているSNSの活用などをすすめていきたいと思っています。委員の公募枠もあるので、情報の発信に興味がある方、ぜひ一緒に活動しませんか？

委員長:井上浩子

興味のある方ぜひ一緒に活動しましょう！

W.Co基金委員会

W.Co基金は、2004年から始まったW.Co同士が支え合う、金銭的な支援の仕組みです。W.Coが事業を継続するために必要な設備や備品、また新しく事業を展開するなどに必要な資金の一部を基金に申請できます。2019年度まで、各W.Coやメンバーからのこころざしにより、総額約1,540万円の寄付が集まりました。そして、助成数としては、22回、117W.Coへ約1,300万円が贈呈されました。

基金への申請方法や審査方法は、少しずつ変わってきました。基金委員会で審査をしていた時期は、申請したW.Coが所属する部門でプレゼンをして、部門から推薦書もらうなど、審査の方法も何段階か経ていました。しかし、部門から選出された基金委員が最後の審査まで責任を持つのは負担も大きかったため、2019年度から、基金委員は、寄付を集める活動に専念し、審査は理事会の代表者が受け持つことになりました。理事会代表者の審査方法としては、申請したW.Coの書類を読み込み、不足のものは、追加で出してもらい、面談に臨みます。基金委員会の会議は隔月で開催されますが、部門の状況を報告してもらい共通認識をもち、寄付の呼びかけ方法のアイデアを出し合っています。みなさん、委員としての使命感をもっていることが伝わってきます。やはりW.Coのメンバーは、ただ者じゃない！と思います。

委員長:小林麻利子

うえい編集チーム

うえい編集チームは、広報委員会ができたときに、編集委員会から編集チーム会議に組織改編されました。活動内容は変わらず、理事会から選出された編集委員が毎月の編集会議で翌月号の原稿の校正や、翌々月号の企画を検討しています。2020年度はコロナ禍で連合会のイベントが中止になったり、書面開催になったりなどして、特集を企画するのに苦労しました。でも、少人数の会議なので時々編集から脱線したおしゃべりも楽しく、和気あいあいと活動しています。そして、脱線するからこそ活動のヒントが見えることもあります。広報委員はイコール編集委員なので、興味のある方はぜひ一緒に活動しましょう！

編集長:小林麻利子